

令和4年度第2回高知西病院地域協議会 議事概要

【構 成 員】	(行政)	浅野 圭二	(高知県健康政策部医療政策課 課長)
		北添 地平	(高知市健康福祉部地域保健課 課長)
(医師会)		野並 誠二	(高知県医師会 副会長)
		藤井 貴章	(高知市医師会 理事)
(関係医療機関)		先山 正二	(国立病院機構高知病院 院長)
(利用者)		土居 怜子	
(高知西病院)		山田 光俊	(院長)
		梶谷 充	(副院長)
		猪熊 秀貴	(事務長)
		前川 紋子	(看護部長)
		川村 佐知	(副看護部長)

【開催日時】 令和5年3月9日(木) 13:00~13:50

【開催場所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院 健康管理センター1階会議室

- 【議 題】
1. 当院運営実績(経営状況)について
 2. 令和4年度決算見込みについて
 3. 令和5年度事業計画について
 4. 新型コロナウイルス感染症の対応について
 5. その他

【出席者】 (医師会) 高知県医師会・野並会長、高知市医師会・藤井理事
(利用者) 土居 怜子
(高知西病院) 山田院長、猪熊事務長
前川看護部長、川村副看護部長
豊永事務長補佐(総務企画)

【概 要】

1. 当院運営実績(経営状況)について

令和5年2月現在の病院運営状況(1日平均入院患者数、1日平均外来患者数、収支状況、健康管理センター運営状況)について以下の通り説明する。

1日平均入院患者数について、今年度患者数が非常に少ない状況である。昨年の中旬が極端に低くなっているのは、コロナの影響もあるが9月に電子カルテを導入したため入院患者数を絞ったという経緯があります。今年度は2月までの状況をみると累計で103.5名となっている。昨年が109名ほどであったが、6名ほど1日平均で少なくなっている。

昨年はクラスターを2回経験し、その関係で患者数が大幅に減った。診療科別の患者数については、整形外科が56%ほどを占めている。

1日平均外来患者数については、昨年、今年度大きな変わりなく推移している。コロナの影響を受け、長期投与が増えたなど診療を控えている傾向がある。2月までの累計で185名ほどとなる。1日平均で昨年より2名ほど少なくなっている。診療科別については内科が多く30%を占めている。透析も30%を占めている。収入は単価も高いので透析が多くなっている。

収支を見ていくと今年度は非常によくはない状況となっている。8月と12月のみわずかではあるが黒字となっている。患者数の減が大きな要因である。費用のほうも増えている。物価高騰に加え、当院は老朽化の一途をたどっており

修繕や古い医療機器の更新とかもあり費用がかさんでいる。

1月までで1億373万円の赤字となっている。

健康管理センターについては、毎年収益を2億ほど計上している。

大きな変動はないが、収益で昨年+600万円を見込んでいる。

救急の受け入れ率については要請件数が大幅に増えており24.9%となった。

受入数はふえているが、要請件数が倍ほどになっており、受け入れ率が低くなった。

2. 令和4年度決算見込みについて

決算見込みについて説明する。

収益は25億円を見込んでいる。前年度の実績に比べて1億円ほど減っている。

要因としては、入院収益が9000万円ほど少ないことがある。

費用は25億9000万円を見込んでいる。前年度より3000万円増加している。

要因としては物価高騰により、材料費が3000万ほど増えている。

収支差は▲8000万円程を見込んでいる。今現在、1億の赤字であるので、

この見込みよりも多い数値になると考えている。

この中には補助金を含んでいない。収支率96%となり令和3年度よりは-5.5%

赤字決算となる。

JCHOでは人件費率は人件費+委託費で計算する。JCHOの目標は65%以下であるが68.4%の見込みである。収入が少ないため人件費率が高くなっている。

患者延べ数についても昨年度より2000人程少なくなっている。

3. 令和5年度事業計画について

令和5年度事業計画について説明する。

リハビリテーションを中心に透析医療、健診センターを3つの柱として運営していくことに変わりはない。また、救急告示病院として二次救急、夜間診療など地域に密着した医療の拡充に努めていく。平成30年6月に開設したブラッドアクセスセンターにて高知県内の透析患者におけるシャント管理を引き続き行っていく。

令和5年度の収入は令和4年度見込みと同等とし、25億9000万円程度としている。次年度はコロナも感染症法の改正に伴って、一般診療となり患者数も徐々に戻ってくるのではないかと考えている。

費用は令和4年度と比べて2600万円程増加している。材料費が物価高騰に伴って増えるを見込んでいる。

収支差で▲2500万円を計画している。本来なら、黒字計画を立てるべきではあるが、そこまで患者が戻ってくるかというところで赤字計上としている。

入院患者数は令和4年度よりも3000人程増える計画としております。

外来患者については、1~3月の患者数を多く見込んでいます。これまでこの時期は患者数が多かったことと、コロナも一般診療となることもあり増加を見込んでいる。健康管理センターは大きな変動がないため、昨年同等としている。

4. 新型コロナウイルス感染症の対応について

令和4年10月1日以降、5階西病棟として10床コロナ専用病床として運用をしている。令和4年12月11日 再度クラスターが発生し、5階西病棟では不足し、5階東部分もコロナ病床として使用し対応した。

令和5年1月7日クラスターは解除されたが、以後5階西病棟10床、5階東病棟10床の合計20床をコロナ専用病床として運用している。今日現在4名の患者が入院している。当院は、土曜、日曜も受け入れしているため、患者は減っているが介護度の高い方の受け入れ要望が多くなっている。

感染症法の改正を受け、今後どのように病棟を運営していくか、国の決定によって再検討が必要になると考えている。

近畿四国地区の広報誌にコロナ関連の投稿をしたものを紹介した。

5. その他（ご意見等）

○経営状況について

（出席者） 昨年は、電子カルテの導入があり9月から実績が下がっていたとのこと

であるが、今年はどうしてか。

(当院) 今年、コロナの関係でクラスターが発生し入院患者数が落ち込んだ。

○救急受入状況について

(出席者) 救急の断った理由のその他とは何か。

(当院) 主には要請件数が多かったこともあるが、休日、夜間に次々と電話があり重なってしまうことがある。

(出席者) 救急患者を積極的に受け入れていくという目標を掲げられているのですが個々の先生の努力ということになりますか。体制的に何か変えられる予定がありますか。

(当院) 休日、夜間は一人の医師と一人の看護師で対応しており、体制的な変更はなく、受けられるところを受けていくようにする。

○地域医療構想について

(出席者) 高知西病院は、地域医療に尽力されている一面とJCHOとして公的病院の一面がある。コロナが収まると地域医療構想の話が出てくると思われる。

ただこれまでと違うのが高知西病院はコロナのことで県内1番位活躍をされた。貢献の具合は県行政にしみわたっている。感染症を診れるんだとアピールしてもいいのではないか。災害・救急と合わせて感染症に対応していくことを強調し明示していけばいいのではないか。

(当院) ありがとうございます。病院が古いこともあり、災害・救急に対応していけるか行政等に相談しながら進めていきたい。

(出席者) 公的病院という視点を忘れてはいけない。会議の場でも必要だと思わせるよう強調してほしい。

(当院) 助言ありがとうございます。